

2012年7月3日

## 提言書

石巻市：THE ローリング・ストーンズ

～俺等はそれを ROCK と呼ぶんだぜ！～

山田町：KYT（けっぱれ山田<sup>トゥーコムスト</sup>Toekomst）

陸前高田市：絆～Save the hope TAKATA～

私たちは、子どもまちづくりクラブです。私たちは、宮城県石巻市と岩手県陸前高田市と山田町の3地域で震災後、地域の復興に向けて自分たちのまちをより良いまちにするために、週1回子どもたちで話し合いをしています。

将来、私たち子どもが大人になって自分たちのまちを支える側になるので、各地域、少しでも楽しく元気なまちをつくることを目指しています。

震災後、文房具やぬいぐるみ、物資のつめあわせなど、必要な物資や募金などを世界中の方々から支援していただいたり、いろんな国の人に来てくれて、いっしょに遊んでくれたり、国について紹介してくれたりして交流できました。

世界中の方が私たちを支援してくれていることがわかり、とてもうれしかったし、とても励まされました。そのおかげで、今までの生活もできるようになりました。ありがとうございました。

私たちのまちのことを忘れず、また来てくれたらうれしいです。

私たちも世界の人役に立てるように子どもまちづくりクラブで話し合い、意見をまとめてきました。聞いてください。

### 1. 大人の意見だけではなく子どもの意見も聞いてください。

私たちが伝えたいこと。それは、「子どもの意見を聞いてほしい」ということです。大人の考えだけで物事を進めるのではなく、かといって一方的に子どもの意見だけを取り入れてほしいというわけでもありません。大人の意見と子どもの意見を、同じ位置・目線で平等に捉えてほしいのです。

私たちがここまで、大人に意見を聞いてほしいと考えるのには、理由があります。それは、去年の東日本大震災での経験です。

大人が避難の時、しきって下さいました。津波がどんなものかということを知らなかった私たちは、何が起きているかわからないまま、高台に避難しました。大人がどんなにあせっていたかも、これからどんなことがおこるかも考えずに。今、私たちが生きているのは、大人の人たちが仕切って下さったからだと思い、感謝しています。ですが、私たちにも、大人が考えていることを教えてほしかったです。高台に避難してから、大人は次々に起こる問題の対処で頭がいっぱいになり、私

たちの意見を聞く余裕がなく、私たちの意見は二の次になってしまいました。そこでは子どもは何もできませんでした。大人が何をしているかが分かっていたら、私たちも協力したかったです。

また、みなさんはご存じでしょうか。ある学校は、津波で大きな被害を受けました。地震の直後、その学校の先生たちは、児童を校庭に避難させました。しかし、高台には誘導せず、迎えに来た親にのみ児童を引き渡し、川の様子をうかがいながら、寒さの中校庭に児童を待機させたままでした。「先生、高台に逃げよう」と必死で訴えた児童もいましたが、先生たちはその意見に対応しきれず、その結果、犠牲者がでることとなったのです。もしあの時、子どもたちの意見をきいていれば、あの時高台に逃げていれば、こんな結果にはならなかったでしょう。

そして、もう一つ子どもの意見を聞くと言う事では大切な話があります。これも大震災の話ですが、ある幼稚園では、地震がおきた時、園児をこのあと、このまま残すか、親に返すかという意見にわかれてしまいました。その幼稚園は高台の上なのでこのままのこしていれば津波の心配はありません。議論しているときに、ふと周りを見ると、「お母さん、お父さん」と泣いている幼児がいました。ここで先生は、子どもの意見を聞いて早く親元に帰した方がいいと思い、バスで幼児を大津波警報のでている海ぞいにかえました。そして、幼児をおくっているときに津波がバスをおそいました。高台に残っていた幼児だけは助かりましたが・・・ここでは子どもの意見をきいて大人が答えを出しました。しかし子どもの意見をきくといって、まだ考えのまとまらない幼稚園児の意見をただきいてよかったのでしょうか。子どもたちを安心させようとするのはとても大切です。しかし、子どもの意見を聞いた上で、子どもの安全を優先して対応することも大切だと思います。小学生と幼稚園児の意見の感じ方も考えなければいけないかもしれません。

これまで私たちが言った意見を、今だけのものと考えず、じっくり考えてみて下さい。「子どもの意見だから」という理由でないがしろにしたりはしないで下さい。“だれが言っているのか”ではなく、“何を言っているのか”という観点で考えて下さい。

子どもの意見を取り入れることによって、子どもが社会について積極的に考えるようになります。自分自身で考えて作り出したまちを好きになり、そして、まちに優しくなります。意見を出し合うことによって、地域の方々との交流が深まり、地域の方々との仲良くなることができます。

大人も子どもも意見を出し合うことによって、まちはより住みやすくなります。

住みやすく理想的なまちになると、まちに愛着がわき、生涯そのまちですごしたいと思世代をこえて「この土地で働きつづけていこう」、まちの未来を大事にしていこうと、考えていくのです。

子どもと大人の、異なる見方からの、自由で想像力に富んだ意見や現実をしっかりとみすえた意見をあわせれば、可能性も広がって、より良い意見が生まれるのではないのでしょうか。

大人、子ども、まちのみんながまちづくりに積極的に参加することによって、未来はどんどん豊かなものになっていくのだ、と私たちは考えています!!

## 2. 子どもの立場にたった防災・災害時の対応を世界中でつくって下さい。

### 1) 世界中で学校・公園・ビルの防災についてのマニュアルを見直ししてください。

学校などで書かれていた避難路が遠回りになっていたり、避難路がなかったり、移動手段がなかったりしたので、分かりやすい、逃げ方や逃げる手段、避難路についての看板をつくってください。そして、それにもとづいた避難訓練をして、訓練の回数を増やしてください。避難訓練期間を作って、地域全体で訓練できるようにしてください。

それぞれの場所で地震災害に対する対応を統一してください。大人や老人は、防災のことを知っていても、対処の仕方がそれぞれ違います。大人が間違っただ判断をしたら、大人も、そのまわりにいる子どもも危ないです。校長の判断が間違っていて亡くなった子もいます。

避難するレベルを決めてください。「震災の何日か前に地震があって、そのときにここまでしか波がこなかったから」と言って、油断したお年寄りが流されました。たとえば、「レベル3の地震なら、市役所の上まで、レベル4なら、あの山の上まで避難してください」というレベルを決めてください。こうすれば、もしもまた大きな地震が来たときも、逃げる避難路や場所などがわかるので、逃げ遅れる人も少なくなると思います。レベルがないと、大人や親の判断で決まってしまうので、あった方が参考になります。

### 2) 友達に会えるようにしてください。

私たちには、震災で県外など、遠くに行ってしまった友達がいます。友達に会えないのは、すごく辛いです。なので、長期休暇の時などに、会えるような場をもうけてほしいです。例えば、バスを出して、広場みたいなところで、みんなで遊べるようにしてください。

### 3) 公共の場で災害の準備をしてください。

昨年起こった東日本大震災で私たちは多くの事を学びました。冬だったため、寒さをしのぐのに学校にあった毛布やカーテンなどが役に立ちました。しかし、学校の制服だととても寒かったので、防寒着（暖かい服）を自由に着せてほしい、指定の防寒着を暖かいものにしてほしいと思いました。

また、食料がなかったので少しの水しかもらえず大変な思いをしました。万が一、人災や天災がおこったときのために非常食や非常袋、フトン・気温に対応できるもの（ホッカイロ・冷えピタなど）を、学校などの公共の場にもたくさん準備しておくべきだと思いました。

### 3. 世界中に子どもたちが協力しあえる体制を作ってください。

子どもまちづくりクラブのような場を世界中に作って、意見交換をしたり、お互いの地域訪問をしたりして、友好関係を深めたいです。普段から、世界中の子ども同士で交流していると、たとえばある国で災害などが起こったときに、子ども自身が伝えて、お互いに助け合うことができます。大人には震災のこととか、生のことを話しにくいけど、子ども同士だったら話をするすることができます。また、今回の震災を受けて、「大人がパニックになって子どもがとても不安になった」「学校の校庭に仮設住宅を立てないで欲しい」等、災害の時にも子どもだからこそ分かることがあります。それから、災害の結果児童労働が増えると言われていますが、貧しいところでは「働かないで勉強したい」と思う子どももいるかもしれません。そういうかき消されてしまうような子どもの声を守るために、子ども同士で話す場が必要だと思います。それによって、弱い立場の子どもを守る災害対策や国づくりを考えることができます。

大人の意見と子どもの意見は違うし、両方の意見を取り入れると、とても良い意見が出ると思います。子どもはとてもユニークな考えを持っていて、実際に子どもまちづくりクラブの活動を見てくれた大人の人の中には、すごいなあと思ってくれた人もいました。私たち子ども自身も意見を言いたいと思っています。

あと、子どもや老人が一番弱い立場にいます。世界中には、貧困や飢餓で困っている子どもや老人もたくさんいます。だから、弱い立場にいる子どもたち自身が意見を言うことや、弱い立場の子どもに代わって、他の子どもがその意見を代わりに言うことによって、弱い立場の子どもや老人を守ることができます。そうすると、みんなにとって、やさしい世界になると思います。

そのために、私たちは、子どもの復興委員会や、子どもが政治に発言できる場を作れば良いと思いました。そして、各国で活動し、各国の子どもの代表が集まるサミットや会議を開きたいです。その中で、子どもの声が大きくなると、色んなところに伝わって実現できると思います。子どもたちが意見を言いやすくするために、子どもの声を聞く信頼できる大人も世界各国でほしいです。

世界には私たちのように意見を言うことができない子どもたちもいます。なので、子どもが意見を言い合う場を作り、子どもが発言権を持って政治に参加し、各国同士でどういう風に、子どもが国やまちを変えたいか意見交換できれば、お互いにとって刺激になったり、学びになったりと思っています。そして、そこに住んでいる子どもがいきいきと暮らせる世界を作っていきたいです。

以上が、私たちの提言です。

宮城・岩手・福島をはじめ、震災を経験した私たち子どもの意見が世界中の防災や復興、そして子どもたちにとって役立つと信じています。また皆さんと会って、今度は交流できたらうれしいです。これからもよろしくお願ひします。